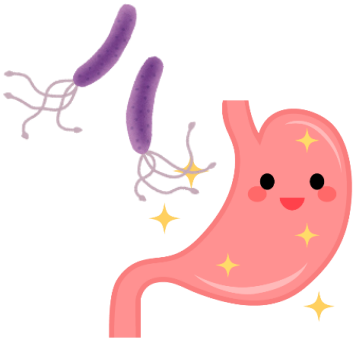
中学生のヘリコバクター・ピロリ抗体検査や内服治療について知っておきたいこと

1. ピロリってどんなもの？



ピロリは、正式には**ヘリコバクター・ピロリ**といいます。数本のベン毛で胃の中を移動する菌で、オーストラリアの医師（マーシャルとウォレン）が発見しました。

胃の中は胃酸によって強い酸性になっていますが、胃酸を中和する力があり、胃の中に住み続けることが出来ます。一度体の中に侵入すると、排除しない限りほぼ生涯にわたって胃の中に住み続けます。

2. ピロリはどのように体の中に入ってくるの？

ピロリは、口から入ってくると言われています。侵入ルートとしては、衛生環境の整った現代では、家庭の中で祖父母や親から子への食べ物の口移しなどから入ってくることが多いといわれています。

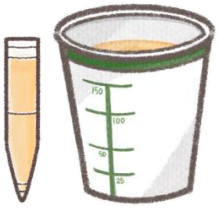
3. なぜ中学生にピロリ治療が必要なの？

ピロリは主に、抵抗力が弱く、胃酸分泌の少ない幼少期（小学校に入る前頃）に体の中に入り込むと言われています。

ピロリが体の中に存在し続けると**「胃炎」**になり、慢性的に胃炎が続くと、**「萎縮性胃炎」**になります。そして**「胃潰瘍、十二指腸潰瘍」**が起こりやすくなり、さらに**「胃がん」の原因**になることも分かっています。また、「鉄欠乏性貧血」などの原因になることも分かっています。

ピロリが体の中に入って間もない中学生のうちに内服治療を行うことで、胃潰瘍や十二指腸潰瘍、そして胃がんをほぼ確実に予防できると考えられています。

4. ピロリの検査はどんなもの？

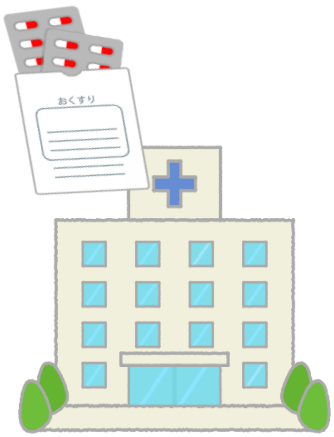


この事業では、**尿検査**（ピロリ抗体検査）を行います。学校定期健康診断で採る尿を活用するので、採尿容器に線までしっかり入れて、提出日に学校へ提出してください。

尿検査で陽性となった場合、指定の医療機関を受診し、**二次検査（尿素呼気試験…息を吐いて調べる検査）**を受けていただきます。この検査での副作用はありません。

二次検査の結果でも陽性となった場合、内服治療が行われます。

5. ピロリの治療はどんなもの？



3 種類の薬を 1 日 2 回（朝食後・夕食後）、7 日間服用します。
2 種類はピロリを排除するお薬、1 種類は胃酸の分泌を抑えるお薬です。飲み間違いのないよう、3 種類がパックになっているお薬を用います。
治療薬の影響で下痢を起こすことがあるため、整腸剤も一緒に飲んで頂きます。 薬のアレルギー症状を起こしたことがある場合は、必ず事前に医療機関にご相談ください。

6. 薬の副作用はある？

もっとも多い副作用は下痢と軟便です。1 日数回程度の軽い下痢・軟便の場合では、治療を継続します。

他には、味覚異常（味が少しおかしく感じる） や軽い吐き気、発疹が起きることがありますが、**治療が終われば自然と治ります。**

※厚生労働省研究費補助金を活用した全国調査（2013～2014 ）によれば内服治療を行った 18 歳以下の小児・青年 343 人では、全体で 14.7%に副作用が認められ、軟便が 4.1%、軽度の下痢 5.2%、発疹 2.1%で重篤な副作用の報告はありませんでした。

副作用が出たとき

副作用が出たときは、通常の診療が行われますが、ごくまれに薬に対するアレルギーで、気道の腫れによる息苦しさや、血圧低下などアナフィラキシーという状態になる場合があります。

このような場合は、すぐに病院に連絡し指示を仰いで下さい。重篤な副作用（治療による死亡、後遺症など） が生じたとされる報告は、現在のところ他市の取組みでもありませんが、病院が加入する保険などで、最善の対応をいたします。

内服治療後の検査（成功確認）について

7 日間の内服治療後、8 週間以上経過してから医療機関を受診し、内服前と同じ尿素呼気試験（息を吐いて調べる検査）を受けて頂きます。その結果で、内服治療成功の有無を判断します。

ピロリの排除が出来なかった場合には、個別に受診した医療機関と相談して今後の対応を検討してください。